

人のうごき

令和5年4月届出分を掲載(希望者のみ)

おたんじょう

桑内 琳平りんぺいくん (昌人・真由子) 栄町
羽坂 瑠莉るりちゃん (章吾・みらい) 北大通2

おくやみ

松田 ミノエさん 98歳 栄町
織田 コメノさん 99歳 南7の5
宮崎 昌幸さん 78歳 南3の2
岩崎 直美さん 69歳 幸町
倉田 裕文さん 60歳 寿町
芳賀 貞子さん 88歳 南2の5
駒井 久晃さん 69歳 南大通2
柏 秀晴さん 76歳 焼尻
林 友子さん 85歳 栄町
安田 孝さん 73歳 栄町
関口 律子さん 87歳 北大通1

人口と世帯数(4月末)

人口	6,250人	(+10)
男	3,024人	(+16)
女	3,226人	(-6)
世帯数	3,407世帯	(+15)

()は前月比

戸籍の届出について

戸籍の届出は休日も対応しています。休日にお越しの際には連絡事項等がございますので、事前に町民課総合受付係までお電話ください。(☎ 68-7003 ※休日可)

※ 広報はぼろ4月号の訂正について

広報はぼろ4月号の18ページ「まちの出来事」の3の応募数に誤りがありました。お詫び申し上げますとともに次のとおり訂正します。

(誤) 約3万点

(正) 約67万点



Dr. 佐々尾の健康カルテ

この号が出る頃には、新型コロナウイルスは5類感染症に変更になります。ただ、ウイルスが突然流行しなくなるわけではありませんから、これから社会はある程度のことは許容していくということかと思えます。もっと早くすべきだったとか、過剰な対応だったなどの意見もあるかもしれませんが、生命に関わった方も、後遺症に悩まれる方もいらっしゃるの、新しく出会うものへの対応としてはやむなしかと感じています。ある意味では災害と同じなので、なにが正しかったのか正解はないでしょう。

さて、コロナでの対応の中で、社会経済的なダメージが大きいことが強調されてきました。病気の面で見ると、感染対策を励行する中で、流行当初は様々な感染症が減りました。羽幌病院のデータでは肺炎も減っています。外出が減るので骨折も若干減りました。入院する患者さんも減っています。ただ、本当に健康を害していないのかは、これから問題になってくるように思います。外来でお話をさせていただく中と、この期間に「つながり」が減っているようです。町内会や老人クラブの集まりがなくなり、高齢者は増えているはずにも関わらず、老人クラブの会員数も減っているそうです。言われてみると出歩いている方も減っているような気がします。外に出て、親戚以外の他人とお話していますか？

これを機に「健康」とはなにか、改めて考えてみました。WHO(世界保健機関)による定義では、「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病の存在しないことではない。」とされています。つまり、ただ病気ではないから健康だというものではないのです。とくに「社会的に良好」というのがポイントです。もともと社会的な面が損なわれている方は、健康を害しやすいことは指摘されており、「健康の社会的決定要因」として近年強調されています。その要因の一つである「つながり」はこの期間に欠如しましたが、実は健康維持に重要な役割を果たしていると考えられています。ですから、知らないうちにこの期間に健康を害していた方も多いのです。

ポストコロナ、ウイズコロナと言われる中、感染症や災害があるかわからず、「持続可能」な社会を作り上げること、レジリエンス(困難を乗り越え対応する力)を高めることが重要になります。

このコラムは「健康」とついていますが、病気のことを中心に話してきましたが、何回かに分けて、社会的な面から見た健康についてお伝えしていきたいと思えます。

(北海道立羽幌病院 副院長 佐々尾 航 医師)

